

【行革甲子園2014】

取組市町名

松山市

所属

地域学習振興課

▽取組事例名

体験学習を通じた人間力育成事業(立岩ダッシュ村、なかじま元気村、坂本ぼんぼこ村、愛ランドごごしま)

▽取組期間

平成21年度～
(継続中)

▽取組概要

集団生活を通じたコミュニケーション能力や豊かな感性を養うため、合併地域や人口減、高齢化の進む離島や山間部などの自然環境の中で、地域、大学、NPOとの交流を図りながら、年間を通じた農業・漁業体験、文化活動体験、食育活動体験、販売体験などを実施している。

▽取組みの背景

母子・父子家庭の増加など家庭の形態が多様化し、共働き家庭も増加しつつある昨今、家庭や地域の教育力の低下が懸念され、子どもたちの体験不足による人間性や社会性の未熟さが指摘されている。

▽取組みの狙い・具体的内容

(取組みの狙い)

自然体験をはじめとした様々な体験活動を行うことにより、子どもたちの生活や学習に対する意欲、集団の一員としての態度などの「人間力の基礎」の育成を図る。また、松山市内において、文化的・産業的な特色があるものの人口減や高齢化が課題となっている地域で体験学習活動を継続して実施することにより、地域住民の生きがい作りや地域の活性化に寄与する。

(具体的内容)

立岩・中島・坂本・興居島地区の恵まれた自然環境の中で「立岩ダッシュ村」、「なかじま元気村」、「坂本ぼんぼこ村」、「愛ランドごごしま」を開催している。

- ・立岩地区の美しい棚田の中で、年間を通して野菜や米作り等の農業体験を行うとともに、「食育」をテーマに味噌作り、餅つきや加工品の販売体験、炭づくり等の活動を行っている。
- ・海や山などの自然に恵まれた中島地区で、みかん栽培を中心とした体験を行うとともに、地引網やカヌー体験など、島ならではの体験を行っている。
- ・坂本地区の里山の中で、野菜や米作り等の農業体験を行うとともに、旧お遍路宿「坂本屋」を拠点に、地域の文化に触れ、お遍路さんや地元の人々との交流を行っている。
- ・興居島地区の豊かな自然の中で、みかん栽培体験や文化体験等を行うとともに、島四国八十八ヶ所体験や地引網体験等を通じて島の魅力を体感してもらっている。

▽取組みを進めていくなかでの課題・問題点(苦労した点)

野菜や米作り等の農業体験を実施するために、日常の農地の維持管理面で地域住民に協力してもらっているが、市職員が主体にならざるを得ない現状がある。また、年間を通じての活動のため、抽選で当選した各村40人程度の参加児童には貴重な経験となっているが、費用対効果の面では課題が指摘されている。

☆工夫した点

農作物の栽培では、地味で苦痛に感じる作業を子どもたちに根気強くさせることで、農業者への尊敬の念や食物を大切にする気持ちを育み、食べ物の好き嫌いを軽減するなど食育面での効果も狙っている。販売体験を活動メニューに取り入れることで職業体験の機会を提供し、コミュニケーション能力の向上も図っているが、地域の特産品のPR活動にもなっている。

また参加児童と指導者との橋渡しの存在として、愛媛大学農学部や松山大学のNPO法人の学生にボランティアとして参加してもらっている。地元住民や市職員の負担軽減に役立っているだけでなく、学生らにとっても良い勉強の機会になっている。

▽取り組みの効果

参加児童や保護者への事業終了後のアンケートにおいて、「協調性や積極性等が向上した」との回答が平均で4割程度あることから、教育的効果が表れつつあると考えている。

また、「参加して良かった」・「楽しかった」と回答する割合が5割以上あったことや児童らがリーダーとして地域を再訪したり、特産品を購入する機会が増加したりしていることから、地域活性化にも寄与していると考えている。

▽住民（職員）の反応・評価

事業の実施や参加児童の家族らが地域のイベント等に参加することによる賑わいの増大や経済の活性化は、地域に大きく評価されている。また、中島地区では、汚れた防波堤を清掃した後、子どもたちが記念として絵を描いたりしたことも地域に喜ばれている。教育はすぐに結果が得られず、形として目に見えにくいのが、参加児童が1年後、行動面や精神面で明らかな成長を市職員が実感することは少なくない。

一方で、野菜や米作りのために農地の維持管理に協力してもらっている地域住民は負担を感じており、高齢化による後継者不足も課題となっている。

☆取り組み効果を踏まえたフォローアップ

この事業は、サンセットではなく、地域の協力が得られる限り、活動メニューの改善やリニューアルを図りながら継続していきたいと考えている。この事業の参加児童が、将来、大学生や社会人に成長したとき、彼らがボランティアとして協力してくれるようになれば、この事業自体が次のステップへと成長した証になるともいえる。

☆将来的な構想のほか、他団体へのアドバイス

事業実施地区の子どもたちと、参加児童との交流がほとんど図られていないため、今後はメニューの一部分だけでも一緒に活動したり、体験学習で栽培した作物を使って一緒に郷土料理を作ったり、一緒にテーマソングを作ったり、歌ったりするなどの共同作業を展開していきたい。

また、農業の普及啓発に取り組んでいる、いわゆるご当地アイドルや、地域活性化に取り組んでいる団体等との連携も模索していきたい。

将来的には、現在実施している4地区の取り組みがモデルとなって他地区のまちづくり関係団体や公民館等でも類似の取り組みが生まれることを期待しており、ノウハウの提供等の依頼があれば、可能な範囲で協力したいと考えている。